

日帰りや短時間での観光などを目的とした外出の実態把握*

A study of trip of pleasure in a short time. *

杉町大輔**・秋山哲男***・三浦春菜****

By Daisuke SUGIMACHI**・Tetsuo AKIYAMA***・Haruna MIURA****

1. はじめに

(1) 研究の背景

戦後の観光・旅行のスタイルが次の3段階に変化してきているといえる。戦後の慰安旅行など団体旅行から、大阪万博を契機として1970年ごろから普及した個人旅行へ変化し、2000年以降の高度情報化社会の到来により、目的や旅行手段が多様化しはじめている¹⁾。

また、行政においては地域交流や経済効果を期待し、観光に関する法制度の整備や施策が講じられ、各地での観光地の整備が進められ始めてきている。地域の観光計画を行うに当たっては、地域の観光資源を磨き、魅力を高めるほかに、観光客の地域へのアクセス性を高める必要があり、観光交通の計画が重要となると考えられる。

これらの観光計画、観光交通の計画を行うためには、適切な現状把握と今後の需要予測が必要である。

2. 研究の目的と方法

(1) 観光と交通に関する調査の現状

パーソントリップ調査や自動車OD調査など、現在行われている交通計画分野の調査における観光の取り扱いはあるトリップの目的を回答者が「観光」と考えた場合について調査している。また、トリップの目的として「買物」や「食事」「娯楽」などを「観光」とは別に選択肢

*キーワード：観光、日帰り観光、休日交通

**正員、修士(都市科学)、株式会社ダイヤモンドシティ
(福岡県糟屋郡粕屋町大字酒殿字老ノ木192-1 ダ
イヤモンドシティ ルクルム

TEL092-938-4700

Email sugimachi.daisuke@gmail.com)

***正員、工博、首都大学東京都市環境学部

(東京都八王子市南大沢1-1、

TEL/FAX042-677-2360)

****学生員、博士後期課程、首都大学東京大学院都市科学
研究科

(東京都八王子市南大沢1-1、

TEL/FAX042-677-2360)

としている(1998年第4回東京都市圏のPT調査より)。

また、観光の統計作成のために行われる国土交通省の全国旅行動態調査²⁾などでは、「観光のために日常生活圏を離れて行くもので、半日以上かけて、レクリエーションやスポーツなどの目的で自由時間に行く」外出の際に、主に利用した交通手段を調査している。

観光の目的が多様化してきている近年では、休みの日に外出して(休日交通)、普段行かない(低い反復性)が、テレビなどで有名なあのお店で食事や買物がしたい(私事目的)、といった外出行動(以下、小晴れ外出)が多くとられていると考えられる。

これらの行動についても、受け入れる地域側にとっては、観光で訪れた観光客と同様に、通常の商圏の範囲外からの来客である。他地域からの集客を目指す観光まちづくりを行うにあたっては、これらの小晴れ外出を行う人についても対象として考慮する必要があると考える。

現在行われている観光の調査では、多様化しつつある観光の全体像を適切に把握できているとは限らない。

(2) 研究目的

本研究は、従来の観光の調査などで対象とされてこなかった日帰りや半日未満などの短時間での、様々な楽しみを目的とした外出、小晴れ外出に着目し、観光地を訪れている人の、交通に関連する従来捉えられていなかった部分を明らかにすることを目的とする。

具体的には、小晴れ外出に着目しながら、以下の2点を明らかにする。

観光地の来街者の従来捉えられていない部分
休日の外出の従来捉えられていない部分

(3) 研究方法

第一に、観光地を訪れている人の行動などを把握するため、小晴れ外出など様々な目的で観光地を訪れた人を対象としたアンケート調査を行った。

第二に、休日にどのような外出が行われているのかを明らかにする目的で、従来の観光の定義には当てはまらない半日未満などの小晴れ外出にも着目して、都市郊外住民を対象としたアンケート調査を行った。

(4) 用語の整理

a) 観光

本研究において単に観光と記述する場合は、国土交通省³⁾の定義する「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行う様々な活動であって、触れ合い、学び、遊ぶと言うことを目的とするもの」であり「半日以上や宿泊を伴うもの」とする。

b) 観光地

本研究における観光地とは、岡本ら¹⁾の定義を参考に「人々が何らかの魅力を感じて訪れている、集客力を持った面的な広がりを持つ徒歩で移動できる範囲」とする。

c) 小晴れ外出

自由時間に行われる楽しみを目的とした外出で、主体が観光には当てはまらない、観光ではない、と考えている外出であっても、日常とは違う楽しみなどをその目的としているもの。観光(ハレ)と日常(ケ)という表現において、ハレとケの中間でややハレ寄りに位置するものを小晴れ(コバレ)と呼ぶ。

3. 観光地の来街者

(1) 調査について

観光地を訪れている来街者を対象として、どのような目的で、どのような地域から訪れているのか等の把握を目的としたアンケート調査(以下、来街者調査)を行った。調査の概要を表1に示す。

表1 来街者調査の概要

調査方法	調査票へ回答者が自記記入		
調査時期	配布 平成 17 年 11 月 19 日、23 日 回収 平成 17 年 12 月 5 日消印有効		
配布方法	通行人に対する直接手渡し		
回収方法	郵送回収		
調査対象者	都市地域の観光地を訪れている人		
調査対象地域	浅草(東京都台東区 雷門前) 川越(埼玉県川越市 時の鐘前) 神楽坂(東京都新宿区 神楽坂通り)		
配布と回収		配布票数	回収数(%)
	浅草	355	95 (26.8%)
	川越	864	277 (32.1%)
	神楽坂	431	131 (30.4%)

なお、調査対象地域については、多くの観光、小晴れ外出が行われていると考えられる都市地域の「町並み観光地」¹⁾である地域として、歴史的な観光地(浅草)、集客のため街並み整備を行った観光地(川越)、地域のための街並み整備で観光地化してきた観光地(神楽坂)の3地域を選定した。

回答者の基本的な属性として、各地域で女性が7割程度を占めた。年齢層では50歳台、60歳代がやや多い結果

となった。また、観光・旅行に対しては積極的な姿勢を示す人が多い結果となった。

(2) 観光地の来街者像

a) 多様な目的での来街

観光地を訪れている来街者の来街目的を地域別にクロス集計した結果、いわゆる観光の目的とされる「地域の名所・施設・イベント・興行などの見物」を目的とした人が、浅草では40.0%、川越で53.6%であったが神楽坂では3.4%であった。さらに、「買物(対象地域で買ったもの)」や「散策」を加えた多様な楽しみを目的とした人は、浅草で90.0%、川越で94.1%、神楽坂で79.7%となった。

観光地は、名所見物などの観光だけでなく、神楽坂のような町並み観光地では、地域代替性のない買物などの小晴れ外出の目的地として訪れている人が多く居ることがわかった。

b) 観光地の集客圏

調査地点から来街者の居住地の自治体の役所までの距離を、GISを用いて10km、30km、50kmで区切り、4分類し、整理した。結果、特に都市地域にある神楽坂は半数以上が10km以内から訪れていることがわかった(図1)。都市地域の観光地では、10km以内や30km以内など、比較的狭い範囲から多くの人を訪れていた。

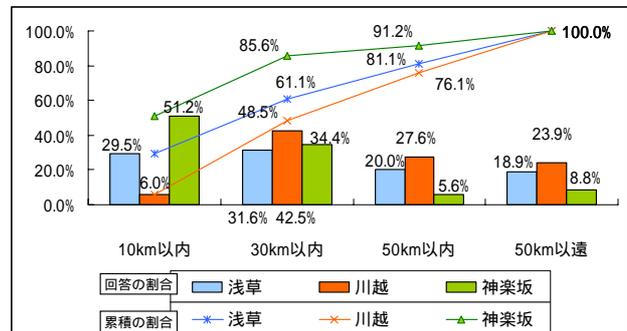


図1 地域別居住地までの距離

また、来街者が地域を訪れる際に利用した交通手段は、地域でも「鉄道・路線バス」の公共交通手段が半数を超える結果となった(図2)。また、都心部に位置する浅草、神楽坂は特に公共交通の利用比率が高く、郊外に位置する川越のみ「自動車・バイク」の利用率が35.3%にのぼる結果となった。

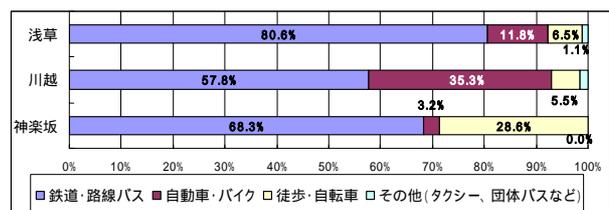


図2 地域別利用交通手段

以上より、都市地域の観光地はおおむね1時間程度の範囲からの来街が多いと考えられる。

c) 短い滞在時間

地域別の地域での滞在時間については、「数時間程度」と半日より短い時間と回答した人が、神楽坂で75.6%が、浅草で56.8%が、川越でも36.1%を占めた(図3)。

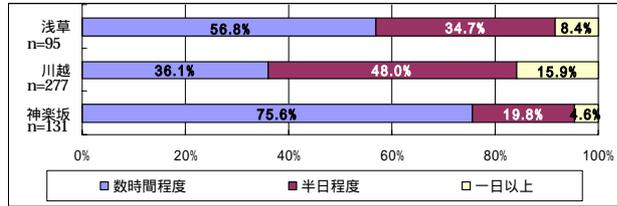


図3 地域別の滞在時間

また、川越では48.0%が、浅草では34.7%が「半日程度」と回答し、観光目的での来街者が多い地域ほど、滞在時間が長くなる傾向にあると考えられる。

また、食事や買物を地域でしたかどうかと滞在時間をクロス集計したところ、数時間程度の滞在であっても60%以上の人々が、食事や買物を行っていた。短時間の小晴れ外出であっても、観光同様、地域に経済効果のある消費行動をしていることがわかった。

(3) 観光地の来街者のまとめ

以上の結果から、都市地域の観光地においては、10kmや30km以内など近距離から、数時間程度など短い滞在時間で訪れる来街者が多いことがわかった。

特に、地域の人々が地域をより良くしようと活動した結果、多くの人にとって魅力的な地域となり観光客が訪れるようになった地域で、「るるぶ」や「散歩の達人」といった地域情報誌で紹介されるような神楽坂のような地域では、近くから、徒歩や公共交通機関を利用して、短時間で、多様な目的での来街が多いと考えられる。

4. 休日の外出について

(1) 調査について

人々が、休日にどのような外出行動を取っているのかを明らかにする目的で、都市郊外の住民に対して休日に日帰り外出したことについて、アンケート調査を行った。調査の概要を表2に示す。

調査対象地域は、都市地域の観光地に30km以内など比較的近郊から、公共交通での来街が多いという実態を踏まえ、これらの条件に合致する地域として、東京都心から30km程度で公共交通が整備されている多摩ニュータウンを選定した。

回答者の基本属性として、地域の年齢構成よりも65

歳以上の年齢層の割合が高くなった。これは調査票を各世帯に2通ずつ配布した結果、世帯の子供ではなく親に当たる世代による回答が多かったためと考えられる。また性別は女性の回答が多くなった。

表2 休日の過ごし方調査の概要

調査方法	調査票へ回答者が自記記入	
調査時期	配布 平成18年11月21日 回収 平成18年11月30日消印有効	
配布方法	郵便受けへのポストイング	
回収方法	郵送回収	
調査対象者	東京都心から30km程度の住民	
調査対象地域	多摩ニュータウン (東京都多摩市、八王子市)	
配布と回収	配布票数	回収数(%)
	世帯数	1500
	票数	3000
	1世帯2票配布	

また、半数以上の人々が観光・旅行へ出かけることについて積極的な姿勢を示した。

(2) 半日の感じ方と外出の実態

従来の観光に関する調査では「半日以上」を観光と定義して調査していたことから、休日の外出の実態を把握するため、回答者が半日と感じる時間の長さ及び最近の休日の外出の時間について質問し、以下のような結果を得た。

a) 人々の感じる半日とは

回答者にとって「半日」と感じる時間の長さの平均値は5.3時間であった。また、59.0%の回答者が、半日は6時間未満と回答し、6時間から12時間の間の長さで回答した割合は39.6%であった。

何時から何時までが半日の外出か、という質問に対し、午前中から始まると回答した割合は78.5%となった。また、88.2%の「12時から18時」までに終了すると回答した人が88.2%おり、多くの人々が「午前中に出かけて、午後の日中に帰宅する外出」を半日の外出と考えていることがわかった。

b) 実際の休日の外出と半日

楽しみを目的として日帰り外出をした際の、目的地での滞在時間は、6時間未満との回答が70.9%を占めた。さらに、それぞれの回答者が考える半日の長さ、実際の外出での目的地での滞在時間を比較すると、半日より短い時間での外出は、64.8%にのぼった(図4)。

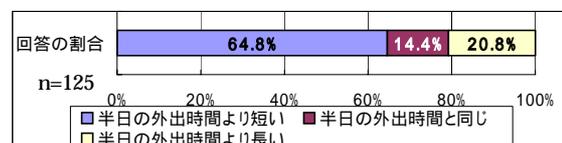


図4 滞在時間と半日の長さ

また、回答者が考える半日より短い時間での外出であっても、食事と買物についてそれぞれ20.4%、16.8%の人が行っており、地域に経済効果のある消費行動をしていることがわかった。

観光交通を計画する際には、これらの従来の観光の調査では捉えられていない半日未満の長さで行われている、休日の外出行動についても考慮する必要があると考えられる。

(3) 小晴れ外出での目的地の選定要因

休日を楽しみを目的として外出する際に、人々が外出の目的地を選択する理由について、a) よく訪れる場所と、b) いってみたいと思っている場所について、想定される地域選択の理由を挙げ、複数回答にて調査した。

a) よく訪れる場所

良く訪れる場所を良く訪れる理由について、「近くて行きやすい」が最も多く53.9%で、「交通が便利で行きやすい」が32.2%となった(表3)。また「あまりお金をかけずに楽しめる」という選択肢も44.3%の人が回答した。

表3. 普段良く訪れる場所を訪れる理由

「繰り返し訪れている場所」を訪れている理由	実数	%
その場所や地域にとっても魅力がある	38	33.0%
その場所や地域に、お気に入りのお店がある	39	33.9%
近くて行きやすい	62	53.9%
交通が便利で行きやすい	37	32.2%
あまりお金をかけずに楽しめる	51	44.3%
その他	21	18.3%

当てはまるものをすべて選択(n=115人)

このとき、交通に関連する要素「近い」「交通が便利」を「地域に魅力がある」などと同程度以上の人が挙げており、観光交通の整備が、観光地への来客に大きな影響を与えると考えられる。

b) いってみたい場所

行ってみたい場所を訪れたいと思う理由については、「街並みや風景など地域に魅力がある」が60.3%の回答者に選択された。魅力のある街並みや風景が人々に訪れたいという動機付けになっているといえる。

一方、行ってみたい場所を訪れることができていない理由について、「遠い」という回答が49.6%と半数近くに上り、「お金がかかる」が29.6%、「交通が不便」が23.5%選択された(表4)。

表4. 行ってみたい場所を訪れられない理由

訪れられない理由	実数	%
遠い	57	49.6%
交通が不便	27	23.5%
お金がかかる	34	29.6%
休みが取れない	18	15.7%
子供など同行者が楽しめそうにない	9	7.8%
その他	37	32.2%

当てはまるものをすべて選択(n=115)

この点でも交通に関する要素「遠い」「交通が不便」が挙げられており、観光交通の整備により、現在の観光地に更なる集客が見込まれる。

(4) 休日の外出での消費額

これらの休日の楽しみを目的とした外出での「飲食代」「買い物代」「入場料など」「交通費」の消費額について調査したところ、買い物代の平均値が3578.2円で最も多く、支出合計の平均値は6280.6円となった。

(5) 休日の外出のまとめ

以上の結果から、半日より短い短時間で休日に外出する人が多いこと、また休日の楽しみを目的とした外出での目的地の選定理由に、交通が大きく関わっていることがわかった。

また、宿泊観光ではおよそ3万円程度の消費が見込まれるとされるが、日帰り観光や、あるいは半日より短い外出であっても、6280.6円という消費がなされており、楽しみのために外出する先、すなわち観光地において経済効果が発生していると考えられる。

5. 結論

都市地域の観光地には、10km以内など近くから、数時間程度などの短い滞在時間で見物をはじめ、買物や散策など様々な楽しみのための目的地で地域を訪れている人が多いことがわかった。

また、休日には、半日より短い短時間で、様々な楽しみのために外出している人が多いことがわかった。

従来の交通計画分野や観光分野の調査では、半日以上で日常生活圏の外であること、回答者が「観光である」と考えているか否かといった条件により、観光及び観光交通の現状を捉えてきていた。しかしながら、これら観光の条件に当てはまらない、休日の外出、小晴れ外出であっても、観光地を訪れる人はおり、観光計画や観光工津の計画にも関連すると考えられる。

以上のことから、観光交通の計画を適切に行うため、現状を把握する際には、短時間、近距離、多様な目的といった小晴れ外出などの観光の定義に当てはまらない外出についても、十分に検討する必要があると考える。

参考文献

- 1) 岡本伸之編：観光学入門、有斐閣アルマ、2001.
- 2) 国土交通省：観光レクリエーションの実態（第9回全国旅行動態調査、ぎょうせい、2003
- 3) 国土交通省観光政策審議会：「今後の観光政策の基本的な方向について」、答申39号、1995.